

No.1

ビッグデータとは、一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど、巨大で複雑な^[1]データの集合を表す用語である。

ビッグデータを取り巻く課題は、情報の収集、取捨選択、保管、検索、共有、転送、解析、可視化等多岐にわたる。

これらの課題を克服しビッグデータの傾向をつかむことで「ビジネスに使える発見、疾病予防、犯罪^[2]防止、リアルタイムの道路交通状況判断」に繋がる可能性がある。

用語自体はデータマイニングで一般的に使われてきたが、2010年代に、ある種のトレンドを示すキーワードとして、新聞・雑誌などでも広く取り上げられるようになった。

No.2

人工知能、すなわちAIとは、計算という概念と、コンピュータという道具を用いて知能を研究する、コンピュータサイエンスの一分野を指す語である。

言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術、または、コンピュータによる知的な情報処理システムの設計や実現に関する研究分野ともされる。

日本大百科全書の解説で、情報工学者・通信工学者の佐藤は次のように述べている。

誤解を恐れず平易にいいかえるならば、これまで人間にしかできなかった知的な行為である、認識、推論、言語運用、創造などを、どのようなアルゴリズムとどのようなデータを準備すれば、それを機械的に実行できるかを研究する分野である。

No.3

キュレーションとは、インターネット上の情報を収集しまとめること、または収集した情報を分類し、つなぎ合わせて新しい価値を持たせて共有することを言う。キュレーションを行う人はキュレーターと呼ばれる。

キュレーターの語源は、博物館や図書館などの管理者や館長を意味するキュレーターからきている。

キュレーターが館内の展示物を整理して見やすくすると同様に、インターネット上のあらゆる情報を、キュレーター独自の価値判断で整理するのがキュレーションであり、キュレーションされたものは、プログラムなどで自動的に収集する従来の検索サービスの検索結果と比べて、「不要なものが少ない」「センスが良い」などといった理由から人気が高まっている。